



にぎわい東北

— つなげよう、ふるさとのチカラ

AEON

2018年2月26日

イオン株式会社

東北のさらなるにぎわい創出に向けて

イオンは変わらず全国の皆さまと東北の復興・創生に取り組みます

まもなく東日本大震災から7年を迎えます。本年もイオンは、「にぎわい東北—つなげよう、ふるさとのチカラ」を合言葉に、これまでの経験をいかし、地域製品のいっそうの拡販や交流型の支援活動、商業施設における防災対策の強化などのさまざまな活動を通じ、東北の復興・創生、さらなるにぎわい創出に向けて取り組みます。

地域産業の活性化を目指し、東北の優れた商品を販売するフェアの第1弾として、3月2日（金）から4日（日）、本州・四国の「イオン」・「イオンスタイル」約300店舗で東北6県の産品最大270品目を一堂に集めた「にぎわい東北フェア」を開催します。続く3月9日（金）から11日（日）には、東北地区の「マックスバリュ」で東北応援商品の特設コーナーを設け、お買物を通じて東北を応援したいというお客さまの想いにおこたえします。

2012年にイオン労使で立ち上げた「イオン 心をつなぐプロジェクト」では、2021年までの10年間に、のべ30万人の従業員によるボランティア活動、東北沿岸部での合計30万本の植樹活動を実施することを目標に掲げて取り組んでいます。

本年は、東北の18カ所で植樹を実施（主催・共催含む）します。また、従業員ボランティアツアーの実施や、全国のグループ会社がそれぞれの拠点で実施する被災地に向けた支援活動等を含め、3万人のボランティア参加を目指します。

本プロジェクトのもと2016年にスタートした「イオン 未来共創プログラム」では、持続可能なコミュニティの再生を目指し、地域の方々と従業員の交流を通じた課題解決に取り組んでいます。本年は新たに宮城県・南三陸町と福島県・鏡石町を加え、3県8地域※に活動エリアを拡大して展開します。

さらに、今夏には福島県いわき市の小名浜港背後地震災復興土地区画整理事業地内に、福島県におけるイオンモール1号店「イオンモールいわき小名浜」を開業します。同モールは、災害時に一時避難所としての役割も担えるよう、これまでに蓄積したノウハウをいかしたさまざまな設備を備えるとともに、コミュニティの拠点として地域の発展に貢献します。

イオンはこれからも、地域の皆さまと手を携え、東北の創生に向けて取り組んでまいります。

※「イオン 未来共創プログラム」活動地（*新規活動地）

岩手県：釜石市・大槌町、遠野市米通地区

宮城県：気仙沼市大島、丸森町耕野地区、南三陸町*

福島県：浪江町・二本松市、南相馬市小高区、鏡石町*

にぎわい東北 一つなげよう、ふるさとのチカラ

[東北の創生に向けた4つの方針]

1. 事業を通じた地域産業の活性化
2. 雇用の創出と働きやすい環境づくり
3. 地域の未来を“とものつくる”環境・社会貢献活動
4. 安全・安心にらせるまちづくり



2018年 取り組み事例

1. 事業を通じた地域産業の活性化

東北の生産者の方々とともに商品開発に取り組み、展開品目や売上の増大を目指します。また店舗でのフェア等の開催を通じ、東北の優れた製品の販路を拡大するとともに、全国のお客さまの東北を支援したいという想いをつなぎ、地域産業や経済の活性化を図ります。

■「にぎわい東北」フェア等 (3月実施予定)

<「にぎわい東北フェア」>

- 東北6県の産品最大270品目を販売
- ・期間：2018年3月2日(金)～4日(日)
※東北・中国・四国エリアは3月1日(木)より開始
- ・店舗：本州・四国の「イオン」「イオンスタイル」約300店舗



<東北応援 特設コーナー設置>

- ・期間：2018年3月9日(金)～11日(日)
- ・店舗：岩手県、秋田県、青森県、山形県の「マックスバリュ」80店舗



<みなと塩竈フェア>

- ・期間：2018年3月16日(金)～18日(日)
- ・店舗：「イオン熱田店」(愛知県)

■合同見本市・商談会

イオングループ各社の従業員が東北地区のお取引先さまの商品への理解を深めるとともに、全国のバイヤーが一同に会して商談を行い、東北産品の販路を全国、さらには世界に広げるための見本市を2012年より毎年開催しています。7回目となる本年の見本市は9月に開催予定です。



合同見本市
(2017年は約5,000人が来場)

2. 雇用の創出と働きやすい環境づくり

被災地域への出店による雇用の創出と、事業所内保育施設の設置による働きやすい環境づくりに取り組むことで、皆さまが地元で安心して働ける環境の実現を図ります。

■事業所内保育施設の設置

イオンモール名取(宮城県)では、従業員に加え、地域の方々にもご利用いただける保育園として、イオンゆめみらい保育園を設置しています。また、今夏に開業するイオンモールいわき小名浜(福島県)内にも保育園を設置し、小さなお子さまをお持ちの方が安心して働ける環境づくりに貢献します。



イオンゆめみらい保育園
(イオンモール名取)

3. 地域の未来を“ともにつくる”環境・社会貢献活動

地域の方々とともに環境・社会貢献活動に取り組み、東北の創生とまちづくりに寄与します。

■「イオン 心をつなぐプロジェクト」

2012年から2021年までの10年間に、のべ30万人の従業員によるボランティア活動、東北沿岸部での合計30万本の植樹活動を実施することを目標に掲げて取り組んでいます。2018年1月末までに、のべ26万3,086人がボランティア活動に参加、植樹本数は25万309本となりました。

また、本プロジェクトのなかで2016年にスタートした「イオン 未来共創プログラム」では、「持続可能な地域共同体の再生」が被災地における社会的課題のひとつであると捉え、グループ各社が交流型の支援活動をスムーズに行えるよう促す実践研修を実施しています。

10年間の「イオン 心をつなぐプロジェクト」において、本年から最終年の2021年までの4年間は、これまでの活動内容を整理し、より充実させていくことでプロジェクト終了後も持続可能なまちづくりに貢献し、次代に引き継がれる活動に育てることを目指し、「地域課題の解決への集中と実践」をテーマとして取り組みます。これに伴い、「イオン 未来共創プログラム」も、本年より活動地を6地域から8地域に拡大し、被災地域への支援活動をさらに進めてまいります。

<「イオン 未来共創プログラム」活動地・活動内容>

*印：新規活動地

活動地		内容	
岩手県	釜石市・大槌町	活動内容	地域産業の創出と障がい者の就労支援をテーマに、「釜石ぶどう」と「大槌クレソン」の6次産業化に向けて取り組む
		参加企業	イオンタウン（株）、イオンリテール（株）、（株）イオンイーハート
	遠野市米通地区	活動内容	限界集落地域の永続化に向けた挑戦への支援をテーマに、どぶろくの商品化に向け、どぶろく用の米づくりプロジェクトに参画
		参加企業	（株）メガスポーツ、イオンコンパス（株）、（株）サンデー、イオンスーパーセンター（株）、マックスバリュ西日本（株）、（株）イオンイーハート
宮城県	気仙沼市大島	活動内容	新しい価値を掘り起し、島の観光を再生することをテーマに、大島架橋と島の活性化に取り組む
		参加企業	イオンプロダクトファイナンス（株）、ブランシェス（株）、イオンリテール（株）、R. O. U（株）、イオンエンターテイメント（株）、イオンバイク（株）、（株）ジーフット、イオンライフ（株）、イオンモール（株）、イオン少額短期保険（株）
	丸森町耕野地区	活動内容	原子力災害による風評の払拭と地元の産業再生をテーマに、耕野名産「ころ柿」やしいたけなどのブランド化を推進
		参加企業	イオンディライト（株）、イオン少額短期保険（株）、イオンモール（株）、イオン琉球（株）、イオンスーパーセンター（株）、（株）イオンファンタジー、イオンプロダクトファイナンス（株）
	南三陸町*	活動内容	日本初 asc 認証※取得（カキ）の取り組みを世界に発信するとともに、最新の技術を活用して水産業の課題解決を目指す ※asc 認証：環境や社会に配慮した養殖場で生産された水産物の認証
		参加企業	2018年新規活動として順次決定

福島県	浪江町・二本松市	活動内容	原子力災害による問題とともに考えることをテーマに、語り部を通じた学びや、支援活動、祭りへの参画などを実施
		参加企業	(株)光洋、(株)山陽マルナカ、イオンリテール(株)
	南相馬市小高区	活動内容	2016年7月に避難指示解除となった小高区のまちづくり支援をテーマに、にぎわいの復活を目指したイベントへの参画や、高校生とのお弁当開発プロジェクトなどを推進
		参加企業	イオン北海道(株)、イオンマーケット(株)、イオン九州(株)、イオンフードサプライ(株)、イオンファンタジー(株)、イオンアイビス(株)、イオンリテール(株)、(株)光洋、マックスバリュ北海道(株)、ミニストップ(株)
	鏡石町*	活動内容	風評被害の実態を学び、農業の再生をテーマに果物農家の6次産業化を応援
		参加企業	2018年新規活動として順次決定

(参加企業は2016～2017年の実績)

■東北応援「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」

3月9日(金)～11日(日)、全国のグループ各社約2,100店舗で、期間内にお客さまから投函いただいたお買い上げレシートの合計金額の1%を岩手県、宮城県、福島県の被災された子どもたちの生活・就学支援のための基金に寄付します。



キャンペーン期間中に投函いただいたレシート金額の1%を寄付

■「イオン社会福祉基金※」より障がい者福祉施設に福祉車両を贈呈

労使一体となって運営する「イオン社会福祉基金」は、障がいをお持ちの方々の自立に向けた活動に役立てていただくため、福祉車両の贈呈等を行っています。2016年には、環境に配慮するとともに非常時の電源としても活用できる「100%電気自動車」を岩手県の施設に贈呈しました。本年は、福島県で福祉車両の贈呈を予定しています。

※「イオン社会福祉基金」: 全国の障がい者の方々の自立と社会活動への参加促進、障がい者福祉の向上を図ることを目的として1977年に設立。現在グループ95社約6万7,000名が加盟しています。労使双方が一人あたり毎月50円ずつ(合計100円)を積み立て、「福祉車両の贈呈」「ボランティア活動」を柱とした社会福祉活動を行っています。



福祉車両

■「第69回全国植樹祭ふくしま2018」に開催に協賛

公益財団法人イオン環境財団、ならびに公益財団法人イオンワンパーセントクラブは、福島県南相馬市で2018年6月10日(日)に「第69回全国植樹祭ふくしま2018」が開催されることを受け、苗木の提供等を含む総額1,000万円相当の協賛を通じ、被災地の復興を支援します。

また、同植樹祭を前に3月11日(日)、福島県相馬市原町雫地内にて「全国植樹祭支援の森」植樹を実施します。約100名のボランティアの方々と1,000本の苗木を植える予定です。

■宮城県亶理町にて海岸防災林となる植樹を実施

公益財団法人イオン環境財団は10月6日(土)、宮城県亶理町で3カ年計画の最終回となる植樹を行います。「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」に賛同し、災害から地域を守る海岸防災林の再生と、緑あふれる森林を次代に引き継ぐため、3年間合計で3,200名のボランティアの皆さまとともに46,000本を植樹する計画です。



亶理町植樹(2017年)

■福島の子どもたちを自然あふれる環境へ招待

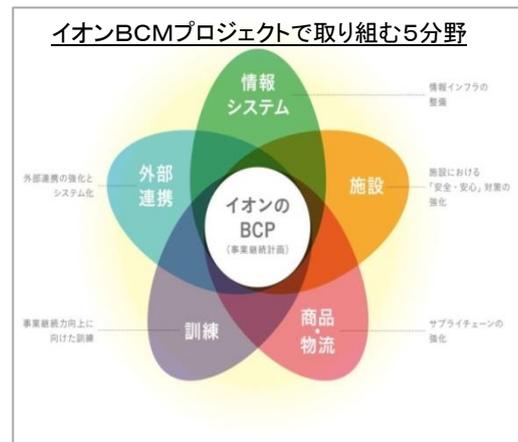
公益財団法人イオンワンパーセントクラブは、2016年より2018年の3年計画で「福島キッズ森もりプロジェクト」を実施しています。震災以降外遊びの不足、自然体験不足が案じられる福島の子どもたちを森林セラピーの先進地として知られる「アフアの森」(長野県信濃町)に招待し、子どもたちに身体を動かし、自然に親しむ機会を提供します。

4. 安全・安心にくらせるまちづくり

東日本大震災の経験をもとに、防災体制を強化し、安全・安心にくらせるまちづくりへの貢献を目指します。

■イオングループBCM(事業継続マネジメント)プロジェクト

2016年に策定した「イオングループBCM5カ年計画」のもと、「イオンBCMプロジェクト」を始動し、①情報インフラの整備 ②施設における安全・安心対策の強化 ③商品・物流におけるサプライチェーンの進化④事業継続能力向上に向けた訓練計画の立案と実行 ⑤外部連携の強化とシステム化の5つの分野に重点的に取り組んでいます。同年には内閣官房国土強靱化推進室が創設した「レジリエンス認証」の第1回取得団体としていち早く認証を取得しています。



■防災拠点の拡大

災害時にショッピングセンターを防災拠点として利用いただけるよう、全国の店舗において、自家発電施設などエネルギー供給体制を確保するなどの安全対策を強化しています。2018年1月末現在40カ所の拠点整備が完了しており、2020年までに100カ所の整備を目指します。

■イオンモールいわき小名浜における防災への取り組み

2018年夏に開業を予定しているイオンモールいわき小名浜では、万一の際には「津波避難ビル」(指定予定)として避難してきた方々の一時的な受け入れや、地域の復興拠点のひとつとして機能を維持できるよう、防災、セキュリティシステム、給水等のさまざまな設備を備えます。

また、オープン前には、グループ企業、および行政等と連携した大規模な防災訓練の実施を予定しています。



受水槽に緊急用給水口を設置
(写真はイメージです)